

Title	英佛二於ケル重要食料品ノ管理(一)
Author(s)	山本, 美越乃
Citation	經濟論叢 (1918), 7(6): 846-851
Issue Date	1918-12-01
URL	http://dx.doi.org/10.14989/127462
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

雜誌

英佛ニ於ケル重要食料品

ノ管理 (一)

山本美越乃

英國ニ於ケル重要食料品ノ管理ハ昨一九一七年以來頗ル組織のニ行ハルルニ至リシガ、就中食料品節約運動、卸賣及小賣價格ノ公定、食料品分配ノ管理及定量支給制度ノ設定ノ如キハ其ノ主要ナルモノニシテ、昨年二月ニハ食料品節約ノ目的ヲ以テ麪包・肉類及砂糖ノ定量支給制度ヲ設ケ、同四月ニハ食料品貯藏取締令 (Food hoarding order) ヲ發シテ利己的又ハ非愛國のノ精神ヨリ食料品ノ買占貯藏等ヲ爲ス者ニハ重キ罰金刑ヲ課スルコトトナシ、同八月ニハ食料問題ニ關スル地方委員ヲ置キ、翌九月ニハ Sir Arthur Yapp ヲ食料經濟委員長 (Director of food economy) ニ任命シテ戰時及戰後ヲ通ジテ努力ノ

缺乏及消費ノ増加ニ起因スル食料品ノ世界的減少ニ對スル解決策攻究ノ任ニ當ラシメ、同十二月ニハ食料問題ニ就キテ最モ信賴スベキ報告ヲ蒐集シ消費者ノ利益ヲ保護スルト共ニ食料大臣 (Ministry of Food) ノ諮問ニ應ズベキ機關トシテ勞働團體及女子ノ代表者ニ依リテ成リ該大臣ニ直屬セル消費者會 (Consumer's council) ナルモノ Lord Rhondda ニ依リテ組織セラルルニ至レリ、更ニ又本年二月實施セラレタル食料品浪費取締令 (Waste of foodstuffs order) ハ一個人タルト商人タルトヲ問ハズ、苟クモ人類ノ食料ニ供セラルベキ物ヲ故意又ハ過失ニ因リテ拋棄滅失又ハ腐敗セシメ若クバ之ヲ浪費シタル場合ニハ犯罪行爲トシテ處罰スベキコトヲ定メタリ、以上ノ他食料品節約ノ目的ヲ達センガ爲メニ食料ノ生産・供給及分配等ノ狀態ニ關スル精確ナル報告ヲ蒐集シ、或ハ各地ニ特別ノ委員ヲ置キテ此ノ目的ノ爲メニ協力セシメ、或ハ地方ノ教育機關ヲシテ展覽會ヲ開カシメ、或ハ家事經濟擔任ノ教師ヲシテ食物ノ調理・生産・保存及廢物利用

ニ關スル知識ノ普及ニ當ラシムル等官民共ニ食料問題ノ組織的解決ニ全力ヲ傾注シツツアリ。

昨一九一七年九月 Rhonda 卿ガ倫敦ニ於ケル米國・加奈太及豫洲ノ新聞記者ノ代表者ニ對シテ公言セル所ニ據レバ、同月以降本年九月迄ノ一箇年間ニ合衆國及加奈太ヨリ穀物・豚製品・砂糖及肉類ヲ購入スベキ量ハ少クトモ一千萬噸以上ニ達スベク、之ヲ貨幣ニ換算セバ一日三百萬弗乃至四百萬弗ニ及ブベシト言ヘリ、而シテ之ガ購入ニ際シテハ各國ノ競争ニ因ル價格ノ騰貴ヲ防止センガ爲メニ聯合國間ニ戰時購買會 (An interally council on war purchases and finance) ナルモノヲ組織シ、英・佛・伊等ノ食料品ノ需要額・噸數其ノ他支拂方法等ニ關シテ共同的ノ協定ヲ爲スノ方針ニ出デタリ、蓋シ主要食料品ノ約六割五分ハ米大陸ヨリ輸入セラルルヲ以テ、斯カル組織的ノ中央機關ヲ設クルニ非ズンバ價格ノ統一及分配ノ公平ヲ期スルコト能ハザルヲ以テナリ。

食料品ノ價格ノ調節ヲ有效ナラシメント欲セ

バ、先ヅ其ノ供給ヲ管理スルノ必要アルヲ以テ、(第一)肉類、ニ關シテハ其ノ卸賣價格ノ最高限度ヲ定ムルガ爲メニ家畜ヲ管理スルノ必要ヲ認メ、全英國ヲ區分シテ十九區トナシ各區ニ家畜委員 (Live stock commissioner) ヲ置キテ當該區域内ニ於ケル牛・羊・豚等ノ頭數ヲ調査セシメ、又其ノ賣買及屠殺ヲ監督セシムルノ方針ヲ採リシガ、昨秋以來諸種ノ事情ハ肉類ノ完全ナル管理ヲ必要ナラシムルニ至レリ、蓋シ戰爭前ニ於テハ英國内ニ於テ需要セラルル肉類ノ四割ハ植民地及外國市場ヨリ輸入セラレタルモノナルモ、開戦後ハ輸入肉類ハ悉ク之ヲ軍隊ニ供給シ、他ノ需要ハ高價ナル内地產ノモノヲ以テ之ニ充テツツアリシガ、最近船腹ノ不足ニ原因セル輸入ノ困難ハ軍隊ニ對スル供給ヲモ内地產ノモノヲ以テセザルヲ得ザルニ至リシヨリ、政府ハ生産者及商人等ノ相當ノ利益ヲ見積リタル上其ノ最高價格ヲ定ムルコトニ依リテ肉價ノ暴騰ヲ抑制スルノ必要ヲ感ズルニ至レリ。

(第一)馬鈴薯、ニ關シテハ昨一九一七年ノ馬

鈴薯條例ニ據リ同年九月十五日以後馬鈴薯ノ生産者ニ對シテハ一噸ニ付キ最低價格六磅以下ニ下ルコトナキ保證ヲ與フルト共ニ、又其ノ最高價格六磅十志以上ニ上ルベカラザルコトヲ定メ以テ卸賣商及小賣商等ノ價格ノ決定ニ對スル標準ヲ示シ、更ニ同十月一日以後ハ卸賣商人ノ利益ハ一噸ニ付キ七志六片ヲ超ユベカラズ又小賣商人ハ一封度ニ付キ一片四分ノ一以上ノ價格ヲ以テ賣却スベカラザルコトヲ定メタリ、然ルニ十一月ニ至リ馬鈴薯ノ收穫ハ著シキ増加ヲ示シタルヲ以テ最低價格ノ制限ヲ廢シ、薯價ノ下落ニ因リテ其ノ消費ヲ増加セシメ從テ他ノ食料品ヲ節約セシムルノ方針ヲ採リ、前掲最低保證價格六磅ト實際賣却價格トノ差額ハ政府ヨリ之ヲ生産者ニ支拂フコトトナセリ、本年一月ニ至リテハ食料管理委員ハ馬鈴薯ノ收穫地積ノ増加ヲ計畫シ、其ノ全面積ハ約九十萬『エーカー』ニ達シタルモ、更ニ土地ノ利用方法ニ注意スル時ハ一百萬『エーカー』ニ達セシムルコトハ敢テ難事

ニ非ズト云フ。

(第二)麪包及麪包粉、麪包ニ關シテハ製造後少クトモ十二時間ヲ經過セザル物ハ之ヲ販賣スルヲ得ズ、又麪包ノ製造ニハ馬鈴薯又ハ其ノ粉末ヲ混用スベキ特別ノ規定ヲ設ケ、最初ハ小麥粉七封度ニ對シテ薯粉一封度ノ割合ヲ以テ混合スベキコトヲ定メシガ、現今ハ斯カル數量上ノ制限ハ之ヲ廢シタルモ製造者ニ於テ適當ト認ムル割合ヲ以テ薯粉ヲ混ズベキコトヲ命ズ、又輸入小麥粉ハ英國產ノモノト混合スルニ非ズンバ之ヲ小賣市場ニ於テ販賣スルヲ得ズ、而シテ其ノ混合ノ割合ハ輸入粉二割五分ヲ超ユベカラズト定ム、本年度ニ於ケル英國内ノ小麥耕作面積ハ昨一九一七年ニ比較スル時ハ約四割ノ増加ヲ示スモ、コハ未ダ合衆國及加奈太ヨリノ輸入量ニ影響ヲ及ボス程重大ナルモノニ非ズ。

(第四)砂糖、ニ關シテハ一九一七年十月一日以降、砂糖小賣商トシテ登錄シ其ノ免許ヲ受ケタル者ニ非レバ販賣ヲ許可セザルノ方針ヲ採リ各商人ハ常ニ手許在荷及供給者ヨリ受クル分配

量等ニ付キテ政府ニ報告ヲ爲スノ義務ヲ有シ、又砂糖購入ノ申込ハ一定ノ期日ニ限り之ヲ受付クルコトトナセリ、自家用糖果製造ノ爲メニ砂糖ヲ購入セントスル者ハ食料管理委員ノ許可ヲ受クルヲ要シ、又特定ノ目的ノ爲メニ購入シタル砂糖ハ其ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ禁止セリ、本年一月一日以後ハ砂糖ノ支給定量ヲ一人ニ付キ一週間半封度ト定ム。

(第五)牛乳、ニ關シテハ卸賣商及一日五瓦以上ヲ販賣スル小賣商ハ凡テ登録免許ヲ受クルヲ要シ、且其ノ販賣量ニ關スル記錄ヲ保存セザル可カラズ、而シテ昨一九一七年十二月以後ハ牛乳製造及食料管理委員ニ於テ特ニ許可シタル目的以外ニ乳脂ヲ使用シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁止セリ、但シ食料保存ノ目的ヲ以テ牛乳ヲ製スルヨリハ寧ロ乾酪ノ製造ヲ獎勵シ、又『チョコレート』製造ノ爲メニ牛乳同粉末・煉乳及乾乳(Dried milk)等ヲ使用スルコトハ絕對ニ禁止セラル。

(第六)牛酪及油脂、ニ關シテハ一九一七年十

一月以降牛酪ノ供給配付ニ制限ヲ設ケ、又脂果及油脂等ニ付キテモ最初ハ軍需品トシテノ『グリスリン』製造ノ目的ヨリ之ガ管理ヲ必要トセシガ、後ニハ更ニ食料品トシテノ『マーガリン』ノ缺乏ヲ補フガ爲メニ其ノ管理ヲ必要トスルニ至レリ、英國政府ハ是等ノ原料品ノ管理ノ結果トシテ他國ヨリモ極メテ低廉ニ『グリスリン』ノ自給ヲ爲スコトヲ得タリ、例ヘバ昨年七月ノ如キハ他國ニ於テハ『グリスリン』一噸ノ價格ハ二百磅以上ノ高價ヲ唱ヘタルモ英國内ニ於テハ僅ニ六十磅内外ニ過ギザリキ、又『マーガリン』ハ從來主トシテ和蘭ヨリ輸入シタルモ、其ノ輸入ヲ減少セシメンガ爲メニ英國内ニ於テ之ガ生産ニ從事スルコトトナレリ、其ノ他今次ノ戰爭ニ依リテ新ニ發明セラレタル廢物利用ノ最モ顯著ナル一例ハ、從來軍隊内ニ於テ棄テテ顧ミザリシ脂滓(例ヘバ食料調理ノ際ニ燒肉等ヨリ滴ル脂汁・食器洗滌ノ廢水中ニ殘レル脂肪・鳥獸等ノ筋骨ニ附着セル脂肪片等)ヲ收集シテ原料品トナスコトニシテ、之ガ收集及保存ハ一九一六年以

後實行セラレシガ、最初ハ之ヲ以テ主トシテ『グリスリン』ノ製造原料ニ充テシモ、後ニハ石鹼其ノ他ノ有用品ノ製造ニモ亦之ヲ使用スルニ至レリ。

(第七茶、ニ關シテハ昨一九一七年十月一時のノ價格調節法ヲ講ゼシガ、更ニ本年五月ニ至リ小賣價格ヲ定メテ一封度ニ志八片トナシ、需要者ハ豫メ小賣商人ニ其ノ申込ミヲ爲スヲ要シ、又小賣商人ハ需要者ノ各家族一人ニ付キ每週『オンス』半ノ割合ヲ以テ供給ヲ爲スベキコトヲ定ム。

以上ハ主要ナル食料品ノ管理ニ關スル規定ノ大要ナルモ、一般ニ最高小賣價格ヲ決定スルコトノ困難ノ一ハ、全國ニ涉リテ統一的ノ小賣價格ヲ定メ且之ヲ強制スル場合ニハ地方ニ依リテハ商人ノ利益ヲ全ク無視スルニ至ルノ虞レアルコト是レナリ、斯カル理由ヨリ食料大臣ハ小賣價格ノ決定ニ關シテハ當該地方ニ於ケル食料委員ノ意見ニ重キヲ置キ、小賣商人ノ利益ヲ能フ限り不同ナカラシメンコトニ最ムルト共ニ、又

地方のノ特殊ノ事情及住民ノ生活程度如何ニ依リテハ多少斟酌ヲ加フルノ方針ヲ採レリ。

英國ニ於テ食料品ノ定量支給制度ヲ直接實行シタルハ、一九一六年十二月五日ノ條例ニ據リ旅館及料理店ニ對シテ献立ノ制限ヲ命ジタルヲ以テ初メトス、然ルニ本年一月ニ至リ食料大臣ハ更ニ各地ニ於ケル食料委員ニ令シテ、各自適當ト認ムル方法ニ依リ管内ノ食料品ノ分配及消費ヲ取締ルベキコトヲ命ジ、又公開ノ食市場ニ關シテハ(一)一般公衆ノ爲メニ開カルル食堂ニ於テハ食料管理委員ノ時々指定スベキ無肉日ニ鳥獸ノ肉ヲ供スベカラザルコト、(但シ此ノ制限ハ五月十七日以後廢止)(二)牛乳ハ茶・珈琲・加加阿又ハ『チコレート』ニ混加シテ使用スル以外ニハ之ヲ飲料トナシ若クバ他ノ目的ニ向テ消費スベカラザルコト、但シ十歳以下ノ小兒ノ飲料ハ此ノ限リニ非ズ、(三)公開ノ食堂ニ於テハ調理用以外ニ砂糖ヲ使用スベカラザルコト、(四)公開ノ食堂ニ於テ消費スベキ肉類・麪包・砂糖・牛酪・『マーガリン』及脂肪類ハ其ノ週間内ニ消費

スベキ豫定ノ總量ヲ超過スベカラズ、斯カル食堂ノ經營者ハ其ノ消費量ニ關シテハ責任ヲ負ヒ且之ガ記錄ヲ保存セザルベカラザルコト等ノ制限ヲ設クルニ至レリ。

以上 Monthly Labor Review, Vol. VII, No. 1, pp. 84-94.
ニ據ル